

われら仲間たち 10



梅田川太鼓が大好きです

梅田川太鼓

梅田川太鼓（下館清貴代表、会員16人）は、旧梅田川分校の子どもたちによって活動されていたもので、統合により廃校となった今でも継続して地域の親子の親睦の場として活動しています。練習は毎週金曜日Jホールで行われ、天台寺の例大祭やJホールまつりなどの各種イベントに参加して成果を披露しています。中学生の高峯理奈さん、安ヶ平香さん、小船重里澄さんの3人は「太鼓をたたき終わった後にお客さんからたくさん拍手をもらうととても嬉しい気持ちになります。何よりも梅田川の伝統を私たちが受け継いでいることをとても誇りに思います」と語ります。



天台寺には陵王、二ノ舞（腫面、咲面各1）各2面のほか、納曽利、貴徳鯉口、還城楽、散手、伝納曽利、伝胡飲酒各1面の計10面の舞楽面が残っており、これらはすべて岩手県の指定有形文化財になっています。

面はすべてカツラ材で作られており、陵王は漆地金箔押し、還城楽は錆下地彩色、貴徳鯉口は白地彩色、その他は漆地彩色です。漆地彩色の7面のうち4面は朱塗りですが、ほかははげ落ちが著しく断片的に朱、白、緑青色が認められるだけとなっています。これらは鎌倉時代から室町時代にかけて作られたものです。

このように天台寺には舞楽面10面が保存されていますが、その舞は一切伝承されていませんでした。平成6年から天台寺保存会の事業として調査研究を行った結果、宮内庁の舞楽（国重要無形文化財）と同一であると判断



見る人を魅了する天台寺舞楽

し、舞楽の復興を目的とし天台寺保存会と駒ヶ嶺新山神楽保存会が協力して、天台寺舞楽保存会が結成されました。

悠久の時を超え復活 天台寺舞楽

舞の指導は元宮内庁楽部主席楽長で日本芸術院会員の東儀俊美先生（恩賜賞・日本芸術

院賞受賞）を年2回招き指導を受けました。そして3人の舞人の育成に尽力いただき、平成10年に舞が復活しました。

天台寺舞楽は5月5日と10月5日に行われる天台寺の例大祭で披露されます。かつて都から遠く離れて踊られた、古式ゆかしい優雅な舞は謎とロマンに満ちあふれています。

この欄の問い合わせ 市まちづくり推進課 ☎25-5411（シビックセンター内）まで